【発行所】
一般財団法人 長 寿 会
小田原市入生田475
TEL.0465-24-0002(代)
発行人／加 藤 伸 一
編　集／夢編集委員会

もくじ

長寿園に出会えて良かった……2
混乱する高齢者住宅……3
長寿園を訪れる鳥「つばめ」4
あゆみ……5
長寿園の日々……6

長寿園理念

「人生の目的は円満幸福の生活にある」との信念に基づき高齢者がそれぞれ円満で幸福な生活ができるよう所要の協力と支援を行うことによって社会に貢献します。

四季を感じながら

入居者　岡田　和代子

名古屋で生まれ心身ともにあまり丈夫ではない私が八十歳過ぎまで、此の世にいられるのが不思議な気がいたします。主人が亡くなり岡田家に一人取り残されて五年間、近所の方や兄弟に助けていただきつつ、淋しさ、をまぎらわせて過ごして参りましたが、神奈川にいる家族が長寿園を探して、はや四年が過ぎてしまいました。何より嬉しかったのは、部屋に入ったその日から淋しさが無くなった事です。三十四キロの体重が一年で三十八キロにもどり、今は四十キロを超えてしまいました。年一回のクラス会で名古屋の旧女学校時代の友達にもビックリされていますが、これ以上太らないよう努力しています。思い出しますと初めて長寿園に伺って体験入居を五泊六日させていただき、担当の方々には何度か近隣の案内を兼ね、車で買い物に連れて行っていただいたりして大変ご迷惑をおかけいたしました。最初の一年は引っ越し疲れから、部屋の外へあまり出ることができず、一日中ベッドにへばりついていたのですが、ミカンを取りにだけは最初の秋から行っているのですから呆れますよね。それでもって、帰りはヘルパーさんに持っていただいたのを覚えています。入居して翌年三月には夜中に頭にケガをしてしまいました。夜中でしたからお騒がせして病院で三針縫っていただき、神経がおかしくなる程の痛みを感じました。治療中終始ヘルパーさんに、付き添っていただいたおかげで安心してお任せできて、長寿園のありがたさを知りました。

年を重ねて新しい地に移り住むことは至難の事。優しく根気良く面倒を見ていただくヘルパーさん達のおかげで今一時でも

一般財団法人への移行のお知らせ

当法人は「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」に基づき神奈川県に移行認定申請をしておりましたが六月十七日に認定され、七月一日に移行登記を行い名称を「一般財団法人長寿会」と変更いたしました。

以上お知らせ申し上げます。

平成二十五年七月吉日

一般財団法人 長寿会
理事長　加藤　伸一

元気になる事ができました。他の入居者の方が庭で四季折々の花を綺麗に咲かせていらっしゃるのを見せていただけるのも楽しみの一つです。お天気が良ければ毎日のように朝九時過ぎ、ミカン畑の方へ友達と二人で散歩します。そのため園の体操に出られないので体操は部屋で適当にやっています。去年は殆ど花が咲かなかったミカンの木に今年はいっぱい咲いたのを眺めながら歩いています。秋が楽しみです。

趣味の会は沢山ありますが、ナマケ者の私はたった一つ、下手の横好きで長年続けて参りましたコーラス会のみ出席させていただいています。

春秋の旅行は殆ど知らない街ばかりですので、たいてい参加申し込みをして連れて行っていただいています。特に今年のスカイツリーは家族より先に見ることができ、写真を見せることができました。五月に名古屋の弟の所でパソコンに去年の行事からスカイツリー、秩父宮記念館まで載っていたので驚きました。担当者に丁度お会いしましたので、其の事をお話ししましたら、担当者の方がブログを更新したとの事でした。便利な世の中になったものです。

入居者の方々は、それぞれ立派な人生を歩んでいらっしゃった方が多いのですが、私のようないたらない者にも親しくしていただく方が多く、ありがたく思っています。家族も時々、来園して安心して帰っています。今私はとても幸せです。

庭で咲く四季折々の花 ―朝顔―

長寿園に出会えて良かった

入居者家族　古舘信生

私の母は四十年以上前につれあい(私の父)を亡くしてから、ずっと一人で新潟県上越市に住んでおりました。上越市は当時雪が多く一人で暮らすには冬は厳しい土地柄でした。私たち子供は関東に出てくる事を勧め、母も関東に来たり、また自分の郷土に戻ったりしておりましたが、最終的には関東でしばらく一人暮らしをしておりました。

八十歳を過ぎた頃から少し腰が悪くなり、病院へ入院をしたり子供の家に来たりしていましたが、回復すると私たち子供と相談して有料老人ホームを探す事になりました。

そんなときに出会ったのが長寿園でした。先代の理事長だった加藤泰純さんのお話を聞いて納得する物があったのでしょう、長寿園にお世話になる事になりました。平成十二年九月の事でした。長寿園は長男の私の住んでいる松田町にも近く、頻繁に様子見に訪問できるという便利さもありました。

入居した最初の慣れない頃は道路で転んだり、お風呂で他の人に助けてもらったりした事もありましたが、ヘルパーさん達の助けで順調に長寿園の生活を楽しむようになっていきました。

私たち子供が一番びっくりして心配したのは平成二十二年四月の事でした。母は食事を摂らなくなり病院に入院したのです。数ヶ月の入院の後、元気を取り戻して長寿園に帰ってきました。長寿園の適切な判断で介護棟のC棟に移して頂き、今は暖かい介護支援を受けております。母は「もういつ死んでもいいよ。長く生き過ぎたわ」と冗談とも本音ともとれる言葉を口にしますが、私たち子供としてはいつまでも長生きして欲しいと思っております。最近の母の顔は安心した穏やかな優しい良い顔をしていると感じる事があります。長寿園のヘルパーさんや職員の皆様には本当によく面倒を見て頂き感謝の言葉もありません。今後とも母の事を宜しくお願いするばかりです。

混乱する高齢者住宅

理事長 加藤伸一

高齢者を取り巻く環境の変化はすさまじく、しかも大変なスピードです。

制度は三年くらいごとに変わり、人々の高齢期や介護、終末期に対する考え方は半年くらいで変わっているような気がします。一年前にサービス付高齢者住宅というすばらしいものができたというテレビドキュメンタリーがあったかと思ったら、一年後にはやや疑問視する番組ができました。

有料老人ホームを終の棲家と言っていたのはもう十年以上も前のこと、現在では特別養護老人ホームやグループホームも終の棲家と言っているようです。ついこの間までは特養を利用施設と言っていたと思います。あくまでも自宅があり、そこで生活できないから一時的に利用するという意味であったと思います。

長寿園は来年六十周年を迎えます。この六十年間に高齢者を取り巻く環境、否、高齢者自身が大きく変わりました。社会経済も大きく変わりました。平均寿命は二十年近く伸び、定年は六十五歳になります。前期高齢者と言う言葉も消え、七十五歳を過ぎてやっと自他ともに高齢者と認めるような時代でしょうか。

有料老人ホームは昭和三十八年に老人福祉法ができて初めてその名称ができました。長寿園はそれよりも十年前に創設されたので当初は老人別荘という言葉を使っていました。そして、介護保険制度ができるまで、四十年近くは、ほとんどの有料老人ホームは自立された高齢者の自助の住居でした。それはまた、高齢者のコミュニティーでもありました。人は一人では生活できません。お互いが関わり合いながら共助とホームスタッフの支援によって有意義な人生を全うするそんな場所でした。ところが、介護保険制度発足後は何故か介護施設になってしまったのです。そして、現在は、社会福祉施設も民間の施設も多種多様にでき、選ぶ高齢者もご家族もなかなか判断がつかないようです。

長寿園は時代とともに仕組みや建物は大きく変化してまいりましたが、その目的は今でも創立の理念どおり、自立された高齢者の自助の住居であり、お互いが関わり合いながらの共助とホームスタッフの支援、そしてスタッフはご入居者から多くのことを学ぶという高齢者を中心としたひとつのコミュニティーであり、また介護が必要になっても最後まで住み続けられる大家族のようなところでもあります。その中で有意義な人生を全うするそんな場所なのです。

いま、多くの施設が混在する中、長寿園はその存在意義をあらたにしております。

長寿園を訪れる鳥「つばめ」

入居者　高津　学

今年のツバメは四月十四日にやってきた。「来たよ」と、窓すれすれに飛んで嬉しそうにご挨拶である。四羽いるようだ。交互にすごいスピードで、あっという間に向こうの林に、円形を描いてこちらへ、さっと佐々木小次郎が真似たあのツバメ返しで反転、目で追うのも忙しい。黒い羽根を円形に広げて颯爽と飛ぶ姿が美しい。爽やかである。なんとも格好いい。

さえずりとツバメ返しだ

夏は来ぬ

あの長いきれいな羽根を借りて、愛しい人の窓辺に飛んでいきたい、と言う語りを読んだのは何の物語だったろうか？ツバメのイメージは、一番早かった汽車のつばめ号、稜線の美しい燕岳に、巷で言われる「若い燕」などと言うのにも連なっている。短い足で電線などに止まると、羽根の先がピント後ろにそって、白い腹部とのコントラストがとても清楚だ。こんなところから燕尾服のデザインが出来たのだろう。長寿園では、一昨年A棟の地下に、昨年はB棟の三階の端に営巣した。今年は何処にするのだろうか。昔から「つばめが巣を作ると縁起が良い」と歓迎されて来たが、ツバメの方でも巣作りには環境の良いところを選んでいるのであろう。適度の温度、湿気など、それに、なによりも長寿園のように優しい人が沢山いるところ、民家の通用口、店の出入り口、駅などである。

この鳥ほど人を信じて寄り添ってきた鳥はいない。天敵（カラス、とび、へびなど）に対して人を盾にしているのだとも言われている。味方であると思っているようだ。しかし最近ツバメの糞害を嫌って、巣を落としてしまう事が多く、数が減っているようだ。野鳥の会では「巣の下に段ボールでも置いて守ってやってほしい」と呼びかけている。

僕の生まれた田舎の家にも毎年やってきた。誰かが、うっかり通用口の戸を閉めると、近くを飛び回り、鳴き叫んで抗議する。軒先に場所を作って巣作りを誘導しても、こちらの努力を無視して、家に入ってきて天井の梁に巣作りする、やむを得ず戸は開けておく、その上に巣の支えを作ってやったり、時には落ちてしまった子ツバメを巣に戻してやったりなどと、応援していた。夏に二回ほどの子育て中は雛のエサねだりの騒ぎで、静かな一軒家も賑やかになった。

秋になると家の周りを親子で飛んでお別れ。「ツバメは田の神を連れて来る」と信じていた祖母は「気をつけて行くんだよ」と声をかけていた。懐かしい思い出である。この時期になると葦などの草原に集まって集団を作る習性があるようだ。九州に居たときに、何千羽のツバメが筑後川原に集まっているのを見たことがある。また昨年だったか酒匂川の近くの電線に沢山止まっていたのが、一斉に飛び立つのをみた。南の国に行くのだろう、ツバメと共に夏が去っていく、感傷に浸りながら、見えなくなるまで見送った。

七草の花も見づして
去るツバメ

正面玄関のつばめたち

あゆみ
～親子２代で働く～

健康課　吉田芳江

私が長寿会に看護師として入職したのは、昭和六十年一月の事で特別養護老人ホームの陽光の園でした。息子が八歳、娘が五歳の時でした。

日々のご入居者の健康管理とデイサービスのお迎えと忙しい毎日を送っていました。

当番制で夜中に呼ばれる事もありましたが、車の運転が出来ない私は主人に送り迎えをしてもらっていました。しかし、主人も夜勤があり一日おきに夜勤の仕事の為、家には居らず送り迎えをしてもらえない事もありました。

下の子が小学校に上がった事をきっかけに自動車学校に通い運転免許を取得しました。

仕事に私生活に充実した毎日を送っていました。そんな私に平成二年十月の事、転機が訪れ脳梗塞で倒れ入院。気が付いた時には右手・右足の麻痺、言葉も不自由になっていました。

三カ月後、退職を覚悟で故加藤洋子施設長に会いに行ったところ前理事長である故加藤泰純理事長も同席してくださり平成三年から長寿園で仕事をするようにとのお言葉に涙が出て止まりませんでした。それから長寿園での仕事が始まりました。陽光の園で勤務している時から土日祝日に当番制で長寿園に来て仕事をしていましたので、抵抗はありませんでした。

現在九十歳代のご入居者も七十歳代の時ですので活気もあり、ヘルパーの数も今の半分以下と少なくても大丈夫な時代でした。

平成十二年に介護保険が始まり長寿園にも介護棟が出来ました。私は平成十五年～平成二十一年まで介護棟の課長を命じられ、ご入居者一人一人の把握・健康管理・職員の輪の調整等を行いました。

ヘルパーと一緒に夜勤業務に入りご入居者の一日の流れと何時どんな事が行えるのか等、色々な事を学ばせて頂きました。ヘルパーにとっては目の上のコブだったに違いありません。(笑)

平成二十二年に健康課に戻り、又看護師として復帰いたしました。五歳だった娘も今では三人の子どもの親となり、共に看護師として親子で長寿園で働いております。

笹木看護師(左)、吉田課長

花に寄せて
夏の花 ガーベラ

入居者　渡辺　千萬子

食堂のテーブルの花瓶にガーベラが活けてあった。もう夏になるのだなぁと思う。

この花を見ると、なぜか夏を感じる。おそらく南方系の渡来した花であろう。

花の色は赤、オレンジ、黄とさまざまで、精一杯太陽に向けてひらいた花はつよい陽光をおそれもせずにあびて咲いている。

あと、もういくらも残っていない人生を前向きに生きていこうとあらためて励まされる。

戦争句

鈴木　恒吉

教練へ思い一途に履く軍靴
教練へゲートル巻いた　足も老い
闇市でわくわく食べた　ソーセージ

青木　千代

青春を挺身隊に駆り出され
戦争へ我慢ばかりを　強いられる
出征を見送るやるせない小旗
配給へ並び感謝のララ物資
戦争で失った物大き過ぎ

高津　学

神風は吹かなかったと　泣いた夏
空腹で造った飛燕飛ばず散り

竹中　糸子

疎開した強い絆の半世紀
辛かった疎開 恋しい母の里
出陣の兄を見送る深い霧
征く朝へ兄と無言でした散歩
戦時下の 母親たちの逞しさ
敗戦の辛苦の末に今の幸

小池　怜子

敵兵を鬼と教えた幼稚園
すいとんの不味さを　言わぬまま涙
防空壕息をひそめていた頭巾
子等並べゲートルを巻く　父のせな
花の庭崩して植えた　芋カボチャ
敗戦へ墨で教科書塗りつぶし

田川　富子

夕焼けのよう空焦がす焼夷弾
墜落の敵機を囲み油盗り
買い出しの父母のリュックを　待った日々
ひもじさに青ぐみ食べて　こわす腹
終戦へ疎開の兄を出迎える

長寿園の日々

七夕飾り付け

60周年プレイベント

十字町教会
歌のプレゼント

編集後記

5月末に各地で梅雨入りとなった今年は「空梅雨」でしょうか？　雨の日はほとんどなく、晴れもしくは曇りでした。6月に入ってから長寿園周辺ではアジサイが咲き始め、徐々に色づいてきました。

全国数多くある高齢者施設の中から長寿園を選んでいただけるよう、これからも精進してまいります。

夢編集委員会

運動会

5月12日	母の日の集い
5月18日	運動会
6月2日	60周年プレイベント
6月9日	十字町教会歌のプレゼント
6月16日	父の日の集い
6月30日	七夕飾り付け
7月27日	コーチャル歌声の部屋